

国際理解教育に関するアンケート調査報告書

1. 目的

多文化共生のまちづくりを目指し、学校における国際理解教育を進めるために、授業で取り組みやすいテーマや手法などに関する意識等を、市内の小中学校の教員を対象としたアンケート調査によって把握することで、今後の国際理解教育の推進やプログラムの作成の一助とすることを目的に実施した。

2. 調査期間

平成 25 年 7 月 20 日から 9 月 2 日まで

3. 調査対象及び回答数

① 市内小学校 70 校

- ・有効回収数 40 票（回収率 57.1%） ※ 回収率は小数点第 2 位を四捨五入した数値。
- ・各校に 1 枚配布

② パワーアップ研修参加教員 83 名

- ・有効回収数 78 票（回収率 94.0%）
- ・内訳

7 月 26 日 教育センターにて実施（小学校 30 票、中学校 25 票）

9 月 2 日 鱧水中学校にて実施（小学校はなし、中学校 23 票）

⇒ ①、②より有効回収数は、小学校 70 票、中学校 48 票 ※ 以下、回収された票数をnとする。

4. 調査内容

- (1) 国際理解教育のねらい
- (2) 国際理解教育の実施状況
- (3) 国際理解教育で実施しやすい内容
- (4) 国際理解教育の実施に必要なサポート
- (5) 国際理解教育に取り入れたい八王子の特色
- (6) 国際理解教育に関する自由記述

⇒ 別添、資料 1（小学校校長会資料）・資料 2（小学校依頼文）・資料 3（アンケート回答票）参照

5. 調査結果

※ 各設問の表及びグラフの割合（％）は小数点第1位を四捨五入した数値。

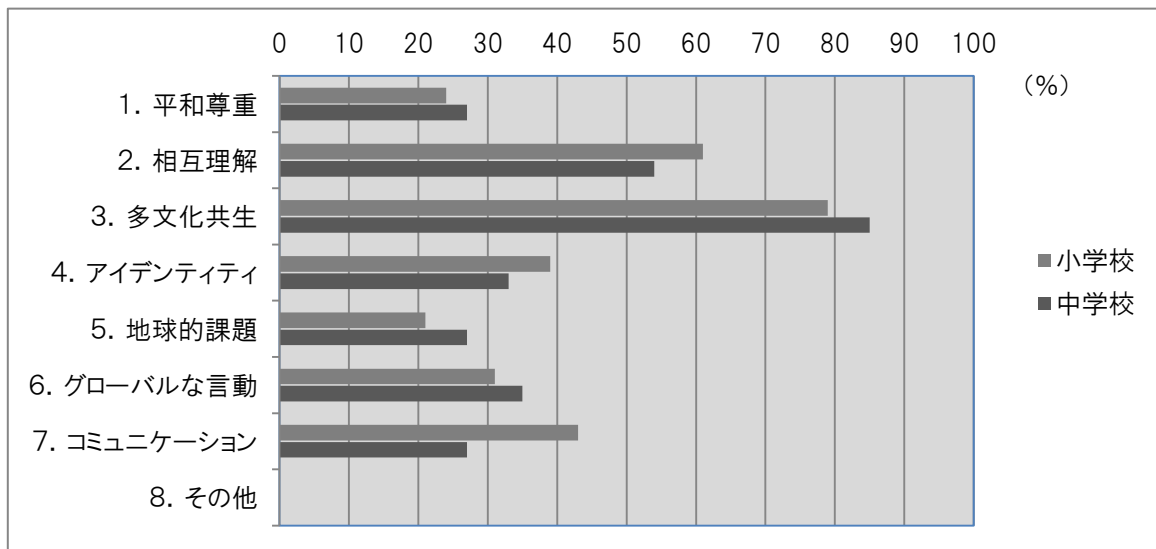
（1）国際理解教育のねらい

問1 文部科学省では、国際理解教育の目的のひとつである「国際化に対応する力」を育てる3つの視点として、「異文化と共生できる資質や能力」「自己の確立」「コミュニケーション能力」を挙げていますが、学校教育での実践において特に重要なねらいはどれだと思いますか。（〇は3つまで可）

〈回答〉

選択肢	キーワード	小学校 (n=70)		中学校 (n=48)	
		n	%	n	%
1. 地球的市民意識を形成し、平和を愛する心を育てる	平和尊重	17	24	13	27
2. 民族的・文化的多様性への興味・関心、相互理解を促進する	相互理解	43	61	26	54
3. 異文化を尊重し、共生できる態度を育てる	多文化共生	55	79	41	85
4. 自国の伝統や文化に根差した自己を育てる	アイデンティティ	27	39	16	33
5. 平和、環境、人権、開発等の地球的課題を考える力を育てる	地球的課題	15	21	13	27
6. グローバルな視点で自分の意見を発信し、行動する力を育てる	グローバルな言動	22	31	17	35
7. 外国語やボディランゲージによるコミュニケーション力を育てる	コミュニケーション	30	43	13	27
8. その他	その他	0	0	0	0

図1 国際理解教育のねらい



〈結果〉

「3. 多文化共生」との回答が小学校で79%、中学校で85%と、どちらも最も多かった。次いで「2. 相互理解」との回答が小学校で61%、中学校で54%と、どちらも2番目に多かった。

〈考察〉

これらの結果から、小中学校ともに教員は、国際理解教育の主たるねらいが、「3. 多文化共生」や「2. 相互理解」にあると認識していることが分かった。

なお、小学校では「7. コミュニケーション」との回答が中学校を大きく上回り、中学校では「5. 地球的課題」や「6. グローバルな言動」との回答が小学校を上回っていることから、小中学校での認識の差も明らかになった。

(2) 国際理解教育の実施状況

問2 最近実施した国際理解教育について、学年・教科・テーマを選択肢の中から選び、取り組みの中で良かった点や改善すべき点があればお書きください。(○は1つだけ) ⇒ 複数回答した回答票も含まれるが有効とする。

〈回答〉

学年	小学校 (n=70)	
	n	%
1年	2	3
2年	2	3
3年	7	10
4年	11	16
5年	26	37
6年	40	57

学年	中学校 (n=48)	
	n	%
1年	17	35
2年	12	25
3年	12	25
無回答	7	15

図2-1-1 実施した学年(小学校)

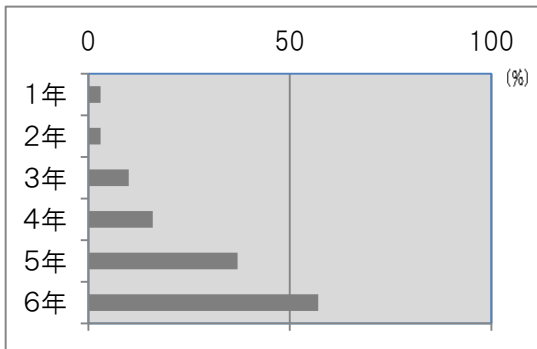
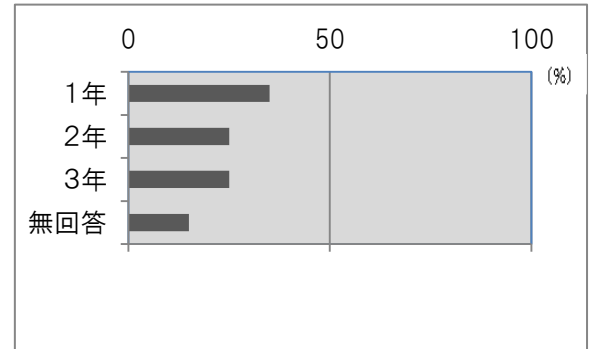


図2-1-2 実施した学年(中学校)



〈回答〉

教科	小学校 (n=70)	
	n	%
国語	0	0
社会	4	6
算数	0	0
理科	0	0
生活	0	0
音楽	1	1
図画工作	2	3
家庭	0	0
体育	0	0
道徳	3	4
外国語活動	34	49
総合的な学習の時間	23	33
特別活動	3	4

教科	中学校 (n=48)	
	n	%
国語	0	0
社会	3	6
数学	1	2
理科	0	0
音楽	0	0
美術	0	0
保健体育	0	0
技術・家庭	2	4
外国語	6	13
道徳	3	6
総合的な学習の時間	27	56
特別活動	0	0
無回答	6	13

図2-2-1 実施した教科(小学校)

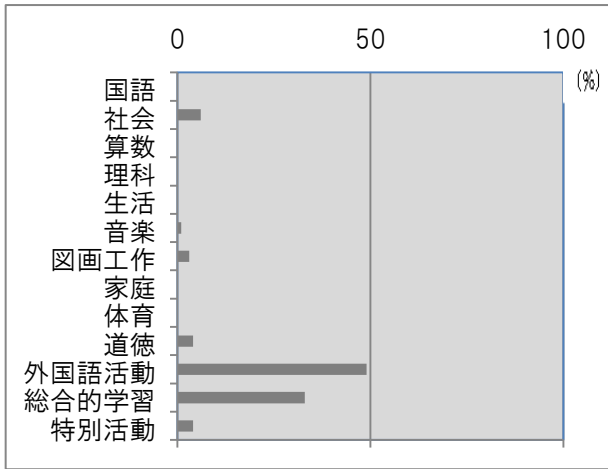
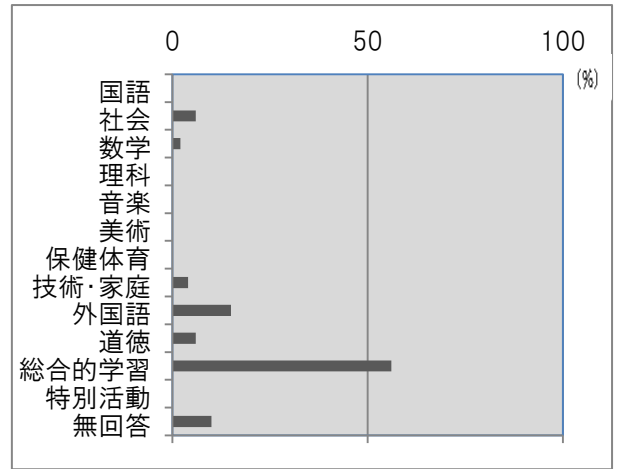


図2-2-2 実施した教科(中学校)



〈回答〉

テーマ	小学校 (n=70)	
	n	%
1. 異文化理解	28	40
2. 外国人講師(留学生)との交流	28	40
3. 国際協力に関する講演を聞く	1	1
4. 自国理解	9	13
5. 地球的課題に関する学習	4	6
6. ディスカッション	1	1
7. 異文化間コミュニケーション	4	6
8. その他	4	6

テーマ	中学校 (n=48)	
	n	%
1. 異文化理解	7	15
2. 外国人講師(留学生)との交流	19	40
3. 国際協力に関する講演を聞く	7	15
4. 自国理解	2	4
5. 地球的課題に関する学習	2	4
6. ディスカッション	4	8
7. 異文化間コミュニケーション	6	13
8. その他	0	0
9. 無回答	1	2

図2-3-1 実施したテーマ(小学校)

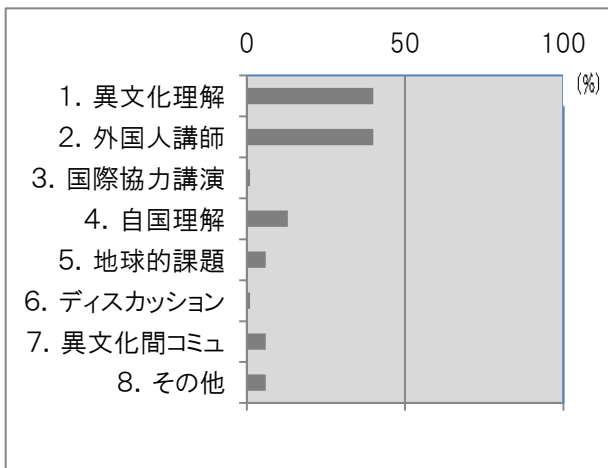
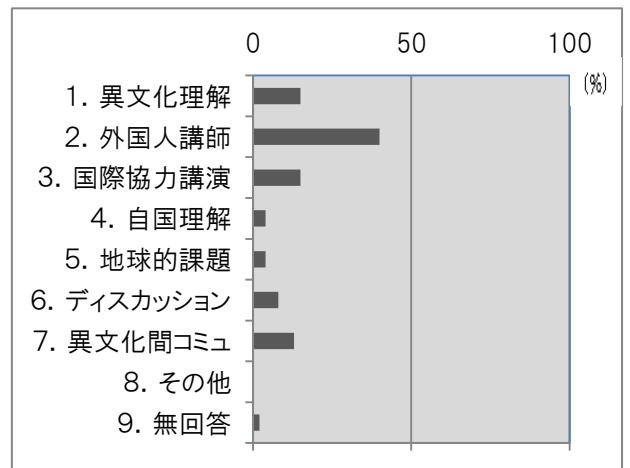


図2-3-2 実施したテーマ(中学校)



〈自由記述より〉

*実践で良かった点

(小学校)

- ・ 外国人講師の自己紹介や出身国の話題から、外国の文化等に興味が持てた。
- ・ 諸外国の文化や歴史を調べ発表し、探究活動が深められた。
- ・ 茶道等日本の伝統文化について調べ、理解が深まった。
- ・ ALT(英語教師)との交流を通して、コミュニケーション能力を高めた。

(中学校)

- ・ 他国を知ることにより視点が新たになり、自身の世界を振り返る機会となった。
- ・ 価値観が異なることへの理解が深まり、「変だね」ではなく「面白いね」と受け止めることの大切さを学んだ。
- ・ 世界で起こっている様々な問題を身近なものとして捉えることができた。
- ・ 外国人を親に持つクラスメートへの理解につながり、いじめの言動がなくなった。

*実践で改善すべき点

(小学校)

- ・ 単発で継続性がなく、浅い体験で終わってしまった。
- ・ 本やインターネットで調べるだけでなく、子どもの生活と関連する体験プログラムがあると良い。
- ・ より多くの交流時間を持ちたい。

(中学校)

- ・ 準備や振り返りの時間が不足。
- ・ 表面的なことに終始せず、「心の交流」がもっと出来れば良い。
- ・ 話を聞くだけでなく、生徒参加型のプログラムが良い。
- ・ 生徒が主体となって外国人との交流の場を運営するように図れば、表現力や探究心の向上につながる。

〈結果〉

国際理解教育が実施された学年は、小学校では6年生が57%、5年生が37%と高学年が多かった。中学校では1年生が35%と最も多かった。

実施された教科は、小学校では「外国語活動」が49%、次いで「総合的な学習の時間」が33%であった。中学校では「総合的な学習の時間」が56%と半数以上を占め、次に「外国語」が13%であった。

実施されたテーマは、小学校では「1. 異文化理解」と「2. 外国人講師」がともに40%で1位であった。中学校では「2. 外国人講師」が40%で最も多く、次いで「1. 異文化理解」と「3. 国際協力講演」が15%であった。

〈考察〉

国際理解教育が実施された学年は小学校5・6年生及び中学校1年生が多く、実施された教科は「総合的な学習の時間」の次にそれぞれ「外国語活動」及び「外国語」が多いことから、平成23年度から小学校5・6年生に導入されている外国語活動と関連した取り組みが行われていると考えられる。

また、実施されたテーマや良かった点(自由記述)から、小学校では、外国人講師と交流することにより外国の文化、歴史に興味を持ち、異文化理解や自国の文化への理解が深まっているといえる。中学校では、小学校と同様に外国人講師との交流や異文化理解が多く実施されていることに加え、国際協力に関する講演も多く実施されており、国際理解教育を通して世界の諸問題を身近に考える機会としていることが窺える。

改善点(自由記述)として、小学校では、継続的でより深い交流や、生活に身近な体験を取り入れたいとする意見が見られる。中学校では、事前事後学習の時間の確保や、小学校と同様の深い交流や体験を希望する意見、更に生徒が主体的に外国人講師との交流を企画・運営するなど参加型学習を取り入れたいとする意見が挙げられている。

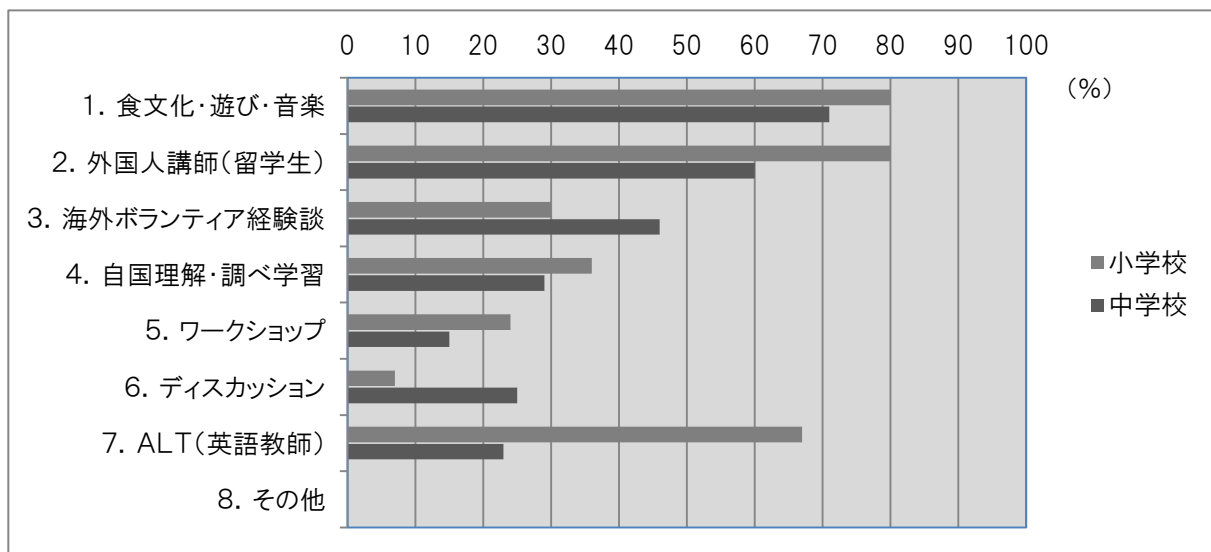
(3) 国際理解教育で実施しやすい内容

問3 国際理解教育に取り組むうえで、実施しやすい内容は何ですか。(〇は3つまで可)

〈回答〉

選択肢	キーワード	小学校 (n=70)		中学校 (n=48)	
		n	%	n	%
1. 外国の食文化や遊び、音楽を通して異文化理解を深める	食文化・遊び・音楽	56	80	34	71
2. 外国人講師(留学生)に自国の文化や生活を紹介してもらう	外国人講師(留学生)	56	80	29	60
3. 海外ボランティアを支援するJICA等と連携して経験者の話を聞く	海外ボランティア経験談	21	30	22	46
4. 日本の伝統や文化、世界の人から見た日本について調べる	自国理解・調べ学習	25	36	14	29
5. 地球的課題について参加型学習(ワークショップ)を通して考える	ワークショップ	17	24	7	15
6. 外国人講師(留学生)と小グループでテーマに沿って話し合う	ディスカッション	5	7	12	25
7. ALTから基礎的な外国語会話やボディランゲージを学ぶ	ALT(英語教師)	47	67	11	23
8. その他	その他	0	0	0	0

図3 国際理解教育で実施しやすい内容



(結果)

小学校では「1. 食文化・遊び・音楽」と「2. 外国人講師(留学生)」がともに 80%を占めた。次いで、「7. ALT(英語教師)」が67%と多かった。中学校でも1位と2位は小学校と同様の傾向が見られたが、3位は「3. 海外ボランティア経験談」が46%を占めた。

(考察)

小中学校ともに、外国の食文化や遊びなどの身近なテーマから異文化理解を深める体験的学習が取り組みやすいと考えられており、外国人講師(留学生)から文化や生活に関する話を聞く活動を希望する意見も多い。

一方、小学校ではALT(英語教師)から英語やボディランゲージを学ぶ活動、中学校ではJICAなどの国際協力に関する講演に興味を持たれている点異なることから、小学校では外国語活動との関連が、中学校では国際協力など世界とのつながりを意識した学びが、それぞれの違いとして求められていることが分かる。

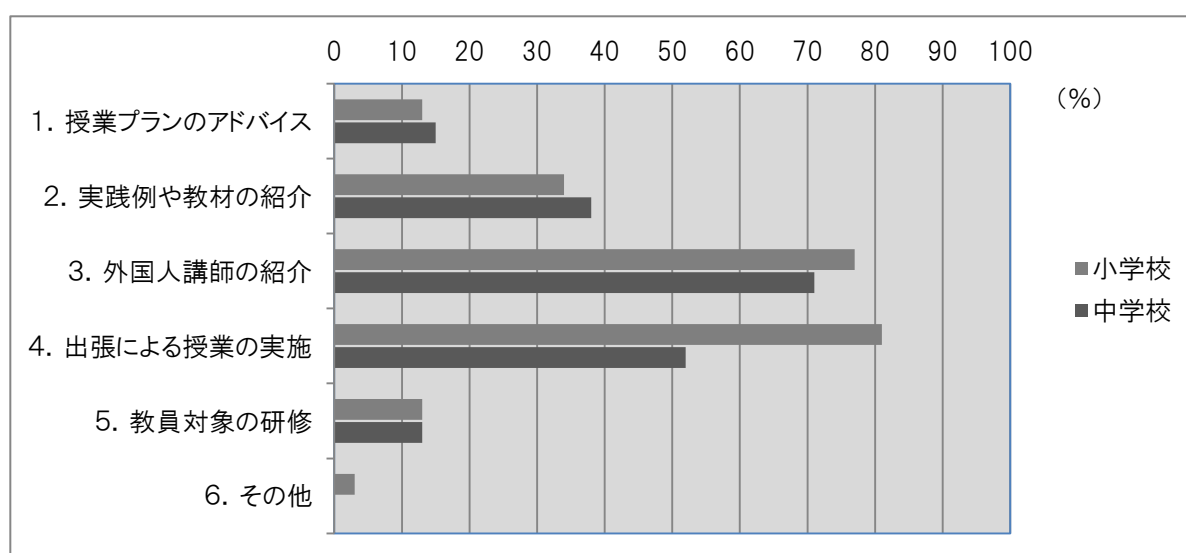
(4) 国際理解教育の実施に必要なサポート

問4 国際理解教育を実施するにあたり、市や八王子国際協会からどのようなサポートがあると取り組みやすいですか。(〇は2つまで可)

〈回答〉

選択肢	小学校 (n=70)		中学校 (n=48)	
	n	%	n	%
1. 授業プラン作成のアドバイス	9	13	7	15
2. 実践例や教材(書籍・DVDなど)の紹介	24	34	18	38
3. 授業に協力する外国人講師(留学生)の紹介	54	77	34	71
4. 出張による授業の実施	57	81	25	52
5. 教員対象の研修	9	13	6	13
6. その他	2	3	0	0

図4 国際理解教育の実施に必要なサポート



〈結果〉

小学校では「4. 出張による授業の実施」が 81%、次いで「3. 外国人講師の紹介」が 77%、中学校では「3. 外国人講師の紹介」が 71%、次いで「4. 出張による授業の実施」が 52%の順に多かった。

また、小中学校共に「2. 実践例や教材の紹介」もそれぞれ 34%、38%と高かった。

〈考察〉

アンケートの結果から、出前による授業の実施や外国人講師(留学生)の紹介は、市や八王子国際協会に求められているサポートであることが分かる。また、実践例や教材の紹介を求める声も多い。

小中学校別に見ると、小学校では、出張による授業の実施について中学校より約 30%多いが、本アンケートの自由記述の回答からも外国語活動と関連づけたいと考えられていることが分かる。また、外国人講師の紹介についても、学年の早い段階から外国人との触れ合いを通して異文化理解を深めたいと希望する声が多い。中学校においても、上位3項目は小学校と同じ結果となり、同様のニーズがあるといえる。

(5) 国際理解教育に取り入れたい八王子の特色

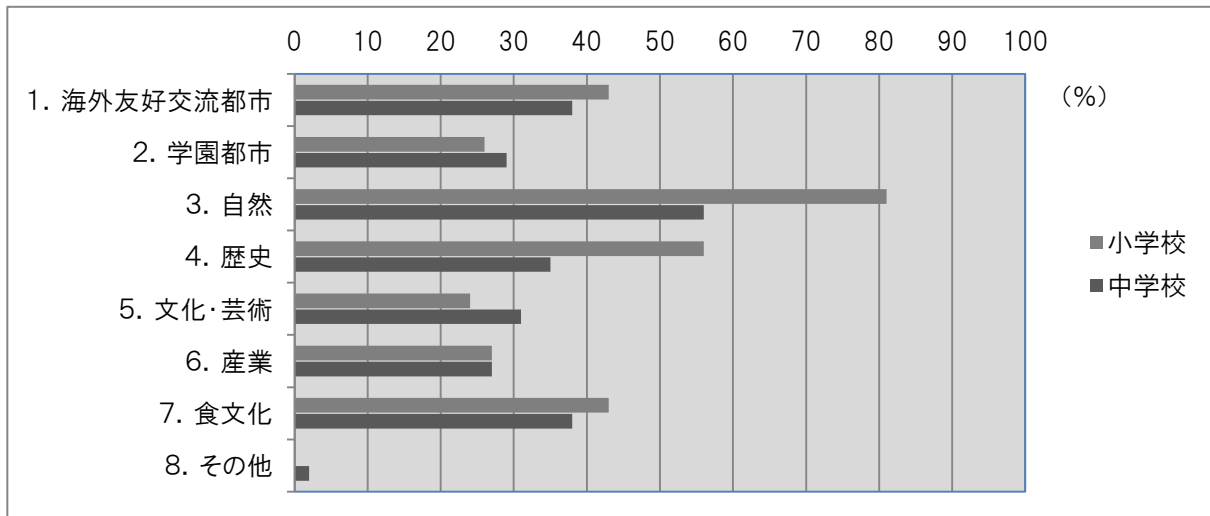
問5 自分の生活が世界とつながっていることを理解したり、外国人に自分が住んでいる地域を紹介したりするために、国際理解教育プログラムに八王子の特色を盛り込む場合、どのような内容が良いと思いますか。

(〇は3つまで可)

〈回答〉

選択肢	キーワード	小学校 (n=70)		中学校 (n=48)	
		n	%	n	%
1. 海外友好交流都市(中国・泰安市、台湾・高雄市、韓国・始興市)	海外友好交流都市	30	43	18	38
2. 学園都市(大学、学生、外国人留学生 等)	学園都市	18	26	14	29
3. 自然(高尾山、浅川、いちよう並木 等)	自然	57	81	27	56
4. 歴史(甲州街道、千人同心、絹の道 等)	歴史	39	56	17	35
5. 文化・芸術(伝統工芸、チェロコンクール 等)	文化・芸術	17	24	15	31
6. 産業(織物、先端産業、農業 等)	産業	19	27	13	27
7. 食文化(郷土料理、特産品、農作物 等)	食	30	43	18	38
8. その他	その他	0	0	1	2

図5 国際理解教育に取り入れたい八王子の特色



〈結果〉

小学校では、第1位は「3. 自然」が81%を占め、第2位は「4. 歴史」が56%を占めた。中学校でも、第1位は「3. 自然」が選ばれたがやや少ない56%、第2位は「1. 海外友好交流都市」と「7. 食文化」がともに38%を占めた。

〈考察〉

八王子の特色として、東京都の中でも緑が多く、ミシュラン三つ星の観光地として外国人も多く訪れる高尾山などを含む自然が、小中学校で生かせる教材だと最も認識されている。

その他、小学校では、甲州街道の宿場町で養蚕業が盛んだことなどの歴史が、中学校では、中国・台湾・韓国の海外友好交流都市3市との交流や農作物が豊かで東京都で唯一の「道の駅」があることなどから身近に感じられる食文化が、八王子の特色として生かせるものと考えられていることが分かる。

(6) 国際理解教育に関する自由記述

国際理解教育全般について

(小学校)

- ・ 子どもたちは興味・関心を持つからこそ、「外国語をもっと知りたい。学びたい。」と意欲が増し、「外国の人々や、異文化に触れたい。」と思うと考える。
- ・ 人間に焦点を当て、共通点と相違点を認め、対話で友好を広げようとする態度を育てたい。
- ・ 現在、国際理解教育は実施しているが、今後ますます大切な分野だと思う。
- ・ 時間的な余裕があれば大いに取り組みたい。世界的な視野を広げることにつながる。
- ・ 教員一人ひとりが国際理解について理解を深めることが、子どもたちへの指導につながる。

(中学校)

- ・ 難しく考えずに、他者理解や、「みんなちがってみんないい」ということを伝えていければ良いと思う。
- ・ 異なる文化、価値観に触れることは重要であり、どんどん指導していくべきである。

国際理解教育を進める方法について

(小学校)

- ・ 5・6年生で外国語活動があるが、子どもたちの動機づけをするためにも、低学年、少なくとも中学年から、国際理解教育に取り組むことが大切だと思う。
- ・ 国際理解教育の目的である「国際化に対応する力」を育てるためにはALTが必要であるが、予算の関係で1学年につき年に数回しか来てもらえない状態にある。担任も授業にももちろん取り組むが予算配分をしっかりと行い、もっと充実した取り組みができると良い。
- ・ 外国語活動との違いは理解できるが、外国語を通して国際理解が深まることも期待できるので、ALTの外国語活動を国際理解教育として認めてほしい。外国語活動の時間が国際理解教育の枠に含まれてカウントされれば、もっと内容が充実すると思う。
- ・ 本校の国際理解教育を進めるにあたり、一昨年、昨年と八王子国際協会に外国人講師を紹介してもらって授業を進めることができ、子どもたちが遠い異国の人々の文化や生活を具体的に感じることができた。地域には大学や、そこに通う留学生がいるが、小学校とのつながりがあまりないので、とても助かった。
- ・ 本校には外国にルーツのある子どもが多く、ごく自然にお互い打ち解けて生活している。今までも国際理解教育に取り組んでいるが、学校としての統一感があまりなく、現在、次年度に向けて見直している。

(中学校)

- ・ さまざまな取り組み方があると思うが、具体的なやり方をたくさん紹介してほしい。
- ・ 国際理解教育は、基本的には総合的な学習の時間で取り組むことと思うが、実際には道徳や学活で行うこともあり、全体的に系統的な指導が実施できているといえない。年間の計画的な指導が必要である。

国際理解教育に取り入れてほしいことについて

(小学校)

- ・ 外国人や世界の物産品など、外国のものに直接触れることが子どもたちにとって大切なことなので、八王子国際協会ぜひ整えてもらいたい。

(中学校)

- ・ 実際に経験などをされてきた方の話を聞けるシステムがあると良い。
- ・ スポーツ選手や芸術家など海外で活躍した日本人の話を聞く機会があると面白いと思う。
- ・ 英語の研修を全ての教員を対象に行ってほしい。英語を話すことができると、大部分の国の人と話ができるというすごさを子どもたちに伝えることができると思う。

海外との交流について

(小学校)

- ・ 以前、八王子市の海外友好交流都市である台湾・高雄市の小学生を招いて、文化交流を行う機会があり、子どもたちの国際理解を広げる糸口となったので、今後も行っていきたい。

(中学校)

- ・ まずは海外の方との直接交流がなければスタートしないので、交流して下さる方のリストや得意分野などの一覧表があり、それらに直接アクセスできると良い。
- ・ もっと多くの子どもが留学できる体制(費用など)が整うと良い。世界の中の日本を理解してほしい。このままでは日本の将来が心配である。

国際理解教育プログラム作成に向けたアンケートについて

国際交流課では、今年度八王子国際協会と協働で学校における国際理解教育で活用していただけるプログラムの作成を予定しています。つきましては、その基礎資料とするため、下記のとおりアンケートを実施したいと考えておりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

1. アンケートの目的

多文化共生のまちづくりをめざし、学校における国際理解教育を進めるため、授業で取り組みやすいテーマや手法などについて、学校及び先生方を対象にアンケートを実施し、結果をプログラム作成やその活用に反映していく。

2. 実施期間

平成25年7月～9月

この期間で下記(ア)～(ウ)をそれぞれ実施予定

3. 対象

(ア) 市内小学校70校

各学校で1枚回答、返信用封筒により回収

(イ) パワーアップ研修(7/26、9/2「国際理解教育」)

当日参加された先生による回答、会場で回収

(ウ) これまでに実践したことのある先生

八王子国際協会を通じて国際理解教育の授業を実践したことのある先生による回答、返信用封筒により回収

国際理解教育の意義

近年、社会のグローバル化が進展し、人・物・情報の行き来が活発化するなか、地域における外国人の定住化が進み、本市では約9,000人の外国人市民が暮らしています。

市では、外国人市民と日本人市民が、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら共に暮らす「多文化共生のまちづくり」をめざしています。次世代を担う子どもたちの多文化共生社会で生きるという意識を醸成し、貧困、人権、差別、資源、環境などのグローバルな問題を国際理解教育を通して身近な問題と捉え、平和な世界の実現のために広い視野をもって協調できる人材育成が不可欠と考えています。

4. 設問項目(例)

※ A4サイズ片面2枚分、選択式6問、自由記述1問を予定しています。

- ・ 国際理解教育を導入する場合、どのような内容が実践しやすいか？
(外国人や留学生との交流、ボランティア経験者から話を聞く、ゲーム等によるワークショップ)
- ・ 国際理解教育を実施するにあたり、どのようなサポートがあると取り組みやすいか？
(授業プラン作成のアドバイス、実践例や教材の紹介、外国人や留学生など講師の紹介 など)

後日(7月20日ごろから順次)、アンケート用紙を配付し、協力を依頼する予定です。

【問い合わせ先】

■アンケートの目的や内容については↓

八王子市 市民活動推進部 国際交流課
Tel/042-620-7437 Fax/042-626-0253

担当：平本・伊藤

■アンケートの回答や提出については↓

八王子国際協会(八王子スクエアビル11階)
Tel/Fax 042-642-7091

担当：花輪

* 八王子国際協会は、外国人市民と共に誰もが心豊かに暮らせるまちづくりを目指す市民ボランティア団体です。(平成20年7月設立)

平成25年7月18日

市立各小学校長様

市民活動推進部国際交流課

国際理解教育プログラム作成に関するアンケート調査について（依頼）

日頃より本市の国際化推進事業につきまして御理解、御協力いただき、厚く御礼申しあげます。

当課では本年3月に策定した「多文化共生推進プラン」に施策の柱として「国際理解・国際交流の推進」を掲げており、その中で「学校における国際理解教育の推進」を重点事業のひとつとして取り組んでいます。

今年度は、外国人市民の支援を行う市民ボランティア団体である八王子国際協会と協働で、小学校における国際理解教育で活用していただける小学校中・高学年向けのプログラムの作成を進めています。プログラムの内容は、実践事例を混じえ、国際理解教育の進め方などを紹介するものとなります。

なお、本アンケートの結果はプログラムの資料編に入れる予定です。

つきましては、プログラム作成のためのアンケートに御協力いただきたく、下記により御回答のほど、よろしくお願い申しあげます。

記

1. 送付資料

アンケート調査票

2. 回答方法

アンケート調査票に御記入いただき、下記回答先に別添返信用封筒により郵送にて御回答くださいますよう、お願いいたします。

3. 回答期限

平成25年8月23日（金）

4. 回答先・担当者氏名

〒192-0083 東京都八王子市旭町9-1 八王子スクエアビル11階
八王子国際協会 事務局 担当・花輪

5. その他

- ・ 本件につきましては、平成25年7月9日の校長会で事前に御了承をいただいております。
- ・ 提出されたアンケート調査票の内容について、学校名を公表することはありません。
- ・ プログラムは、来年度各小学校に提供させていただく予定です。
- ・ 「多文化共生推進プラン」は市のHPで公開しています。

【URL】 http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_localhost/soshiki/gakuentoshibunkaka/kokusaikoryu/plan.pdf

【問い合わせ先】

■アンケートの目的・内容について

八王子市 市民活動推進部 国際交流課

Tel/042-620-7437 Fax/042-626-0253

E-mail/b051000@city.hachioji.tokyo.jp

担当：平本・伊藤

■アンケートの回答・提出について

八王子国際協会

Tel/Fax 042-642-7091

E-mail : koko-8@nifty.com

担当：花輪

* 八王子国際協会は、専門家による外国人のための無料相談、通訳・翻訳、留学生支援、外国人住民と日本人住民の交流イベントなどを行っている市民ボランティア団体です（平成20年7月設立）。

国際理解教育プログラム作成に関するアンケート調査（小・中共通）

*該当する箇所に（○）をお書きください。

～本アンケートに回答される方について、お聞きします。～

〈学校名〉 _____ (小学校 ・ 中学校) (名前) : _____
 いずれかに○をつけてください。

問1 文部科学省では、国際理解教育の目的のひとつである「国際化に対応する力」を育てる3つの視点として、「異文化と共生できる資質や能力」「自己の確立」「コミュニケーション能力」を挙げていますが、学校教育での実践において特に重要なねらいはどれだと思いますか。

(3つまで選択可)

- () ①地球に暮らす一員としての地球的市民意識を形成し、平和を愛する心を育てる。
 () ②国内外の民族的・文化的多様性への興味・関心を育て、文化間の相互理解を促進する。
 () ③異文化や、異なる文化を持つ人々を受け入れ、尊重し、共生できる態度を育てる。
 () ④自分の国の伝統や文化に根差した自己を育てる。
 () ⑤平和、環境、人権、開発などの地球的課題を認識し、考える力を育てる。
 () ⑥グローバルな視野に立って、自分の意見を主体的に発信し、具体的に行動する力を育てる。
 () ⑦基礎的な外国語やボディランゲージを使ってコミュニケーションできる力を育てる。
 () ⑧その他 ()

問2 最近実施した国際理解教育について、学年・教科・テーマを選択肢の中から一つだけ○を付け、取り組みの中で、良かった点や改善すべき点があればお書きください。

<選択肢>

- ア. 学年 (①小1 ②小2 ③小3 ④小4 ⑤小5 ⑥小6 ⑦中1 ⑧中2 ⑨中3)
 イ. 教科 (①国語 ②社会 ③算数 ④数学 ⑤理科 ⑥生活 ⑦音楽 ⑧図画工作 ⑨美術
 ⑩家庭 ⑪技術家庭 ⑫体育 ⑬保健体育 ⑭道徳 ⑮外国語活動 ⑯外国語
 ⑰総合的な学習の時間 ⑱特別活動)
 ウ. テーマ (①異文化理解 ②外国人講師(留学生)との交流 ③国際協力に関する講演を聞く
 ④自国理解 ⑤地球的課題に関する学習 ⑥国際理解に関するディスカッション
 ⑦異文化間コミュニケーション ⑧その他)

(良かった点)

(改善すべき点)

問3 国際理解教育に取り組むうえで、実践しやすい内容は何か。(3つまで選択可)

- ①外国の食文化や遊び、音楽などに触れる体験を通して異文化理解を深める。
- ②外国人講師や外国人留学生に自国の文化や生活などの紹介をしてもらう。
- ③海外ボランティアを支援するJICAなどと連携してボランティア経験者から話を聞く。
- ④自分の国の伝統や文化、世界の人から見た日本などについて調べる。
- ⑤地球的課題について、ゲームやロールプレイ、ディベート、ランキングなどを取り入れた参加型体験学習(ワークショップ)を行う。
- ⑥外国人講師や外国人留学生と小グループでテーマに沿って話し合う。
- ⑦ALTの英語教師から基礎的な外国語会話やボディランゲージを学ぶ。
- ⑧その他()

問4 国際理解教育を実施するにあたり、市や八王子国際協会からどのようなサポートがあると取り組みやすいですか。(2つまで選択可)

- ①授業プラン作成のアドバイス
- ②実践例や教材(書籍・DVDなど)の紹介
- ③授業に協力する外国人や外国人留学生の紹介
- ④出張による授業の実施
- ⑤教員対象の研修
- ⑥その他()

問5 自分の生活が世界とつながっていることを理解したり、外国人に自分が住んでいる地域を紹介したりするために、国際理解教育プログラムに八王子の特色を盛り込む場合、どのような内容を取り入れたら良いと思いますか。(3つまで選択可)

- ①海外友好交流都市(中国 泰安市、韓国 始興市、台湾 高雄市)との交流
- ②学園都市(大学、学生、留学生 等)
- ③自然(高尾山、浅川、いちょう並木 等)
- ④歴史(甲州街道、千人同心、絹の道 等)
- ⑤文化・芸術(伝統工芸、フェロコンクール 等)
- ⑥産業(織物、先端産業、農業 等)
- ⑦食(郷土料理、特産品、農作物 等)
- ⑧その他()

～国際理解教育に関して、ご意見等があればご自由にお書きください。～

()

ご協力ありがとうございました。